

第3期 事業報告書

期間：令和3年11月1日～令和4年10月31日

1 総括

第3期は既存事業に加えて、新規事業として「市民レポーター教室」を実施し、メディア運営事業だけでなく、セミナー事業をさらに拡大した。

メインとなるメディア運営事業に関しても、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、観光需要が戻って来ており、アクセス数などの数字面も向上。特に「倉敷とことこ」はリリースから4年以上経過し、ライター・レポーターとして活動したいと考える人が増えているようで、認知度・信頼性が高まっていることを実感するシーンも増えている。

さらに、メディアの認知拡大とともに、地域系のライティング案件などを打診されるケースが増えており、その結果収支面は大きく改善。前期までの赤字を解消することができた。

全体として今期は、前期までの問題点はほぼ解消することに成功。財務体質としては未だ脆弱だが、来期以降も活動を継続できる下地を作ることまではできたと考えている。

2 収支

経常収支として、2,325,152円の黒字となった。このため、前期からの累積赤字「1,883,849円」を解消することに成功。日本政策金融公庫から1,564,000円、代表理事戸井から80万円の借り入れ（基金）を合算すると、未だに負債は約240万円あるが短期的な収支としては大きく改善している。

ただし、黒字転換は役員報酬を大幅にカットした結果実現している。来期以降は役員を生活を支える意味でも、役員報酬をアップさせながら、再度赤字転落することなく今期並みの収支を維持する必要があるため、売上増が急務となる。

3 実施した事業

メディア運営事業（とことこシリーズ）

倉敷とことこ・備後とことこの既存メディア運営を行った。今期前半（2021年11月～2022年3月）は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛などにより、お出かけ・飲食記事が書きづらい状況であったが、後半は多少の変動はあるものの観光需要が回復。特に倉敷とことこについては、月間ページビューが50,000PV以上で安定する状況となり、2022年10月は過去最高の「167,125PV」という結果を残すことができた。

備後とことこについては、ライター陣が他案件などで多忙を極めており、取材数そのものが減少する状況となっている。このため、新規ライターの確保が課題。高梁川流域ライター塾の修了生に対するアプローチを強化するなど、来期は備後とことこの体制強化が課題だが、エリアが広く全てに注力するのは難しいため、来期は福山・尾道・笠岡のうちどこか1つを強化地域とし体制強化を図る。

また、メディア運営事業が収益悪化要因であるため、今期は取材数を抑制し、役員が記事を書くことで本数を下支えしていた。公開記事数は減少する見込みだったが、新規事業の「倉敷市民レポーター教室」が上々の立ち上がりを見せ、公開から2年以上経ち古くなった記事のメンテナンスに注力したこともあり、倉敷とことこは前期より公開記事数を増やすことに成功した。

※備後とことこは減少しているが、前述の要因含めて計画通り

メディア	今期公開記事数	前期公開記事数	前期との比較
倉敷とことこ	133本	92本	+41
備後とことこ	72本	86本	-14
合計	205本	178本	+27

※公開記事数は既存記事の最新化も含む

セミナー事業（高梁川流域ライター塾）

前期からの継続事業として、笠岡市民ライター育成講座「高梁川流域ライター塾 2021」を実施した。また、今期は前年に引き続き倉敷市「令和 4 年度高梁川流域地域づくり連携推進事業」に採択され、浅口市民ライター育成講座「高梁川流域ライター塾 2022」も開催した。

講座名	開催期間	申込者数
笠岡市民ライター育成講座 「高梁川流域ライター塾 2021」	2021 年 9 月 12 日 ～2021 年 11 月 14 日	207 名
浅口市民ライター育成講座 「高梁川流域ライター塾 2022」	2022 年 8 月 28 日 ～2022 年 10 月 30 日	135 名

高梁川流域ライター塾 2021 については「無料」というインパクトもあり、全国から 207 名からの申込があり、最終的に 26 名の修了生を輩出することができた。

高梁川流域ライター塾 2022 は次年度に同一補助金を申請しないことを前提申請したため、有償化するなど基盤整備を行いながらの開催となったが、全国から 135 名の申込みがあり、申込者数ベースでは一定の成功を収めることができた。ただし、修了生となりその後のライター活動に繋げることが重要であるため、来期にかけて引き続きサポートを行う。

令和 5 年度開催についても、開催そのものはすでに決定しており、その他のとおり「高梁川流域圏の市町での開催継続」を目標とする。しかし、次年度以降は高梁川流域地域づくり連携推進事業（最大 75 万円補助）には申請せず、自主事業としての開催となるため資金確保が課題となる。

セミナー事業（市民レポーター教室）

今期の新規事業として、市民ライター活動を疑似体験できる仕組みとして「市民レポーター教室」を開催した。

倉敷・笠岡で開催しており、倉敷は「令和 4 年度市民企画提案事業」、笠岡は「令和 4 年度笠岡市志縁型団体協働のまちづくり事業補助金」に申請し、採択を受けての開催となった。

※講座はリアル開催も行ったが、オンラインを主としており常時開催中

講座名	申込者数	投稿記事数
倉敷市民レポーター教室	46 名	11 本
笠岡市民レポーター教室	12 名	1 本

自社メディアの展開エリアで開催しているため、倉敷・笠岡でメディアの知名度に依存して結果に差が出ているが、次年度以降も継続開催することで定着を図る。令和5年度については、倉敷市市民企画提案事業に再度申請することを決めているため、倉敷の実績などを横展開する施策も検討する。

受託事業

今期の売上アップには受託案件の増加が大きく寄与した。前期までは代表理事戸井のシステム関係の仕事が大半を占めていたが、今期は地域のライティング・ホームページ制作案件の割合が増えたことが大きな特徴といえる。

とことこシリーズ・高梁川流域ライター塾などの知名度が上がったことにより、「地域、社会貢献系の案件ならはれとこ」という認知も拡大していると思われ、市民ライターへの案件紹介に繋がるという意味でも良い循環が生まれている。

ただし、前期に引き続きほぼ全案件のプロジェクト管理を代表理事の戸井が行っており、キャパシティの限界が見えつつあるとも事実。今後、会社全体としての売上アップを図るためには、仕事を取るだけでなく推進できる人材の確保が課題と考えている。

広告戦略と寄付募集

「Google Ad Grants」を利用した広告活用、寄付募集のランディングページを制作した。短期的な成果を求めるものではなく、「非営利ベースでメディア運営を行っている」という事実を周知することを最大の目的として制作した。

受託案件獲得に繋がったなど、一定の成果を上げており、来期以降もメンテナンスを行いながら引き続き注力する。

児童養護施設へのPC・スマホ貸与

令和4年度に入り諸般の事情により、PC提供元であるピープルソフトウェア株式会社からの貸与が大幅に減少したため、2021年12月の貸与を最後に過去に貸与したスマホのサポートが中心となった。岡山県社会福祉協議会を経由した、児童養護施設との連絡体制は構築できているため、状況をみながら他のIT企業にも拡大するなどの検討を行っていく。

時期	施設名	台数
2021年12月	社会福祉法人 鳥取上小児福祉協会 天心寮	PC3台
2021年12月	岡山市善隣館	PC1台
2021年12月	児童養護施設 わかば園	PC1台
2021年12月	児童養護施設 みのり園	PC1台

4 体制

3期は以下の体制で運営した。

代表理事	戸井 健吾
副代表理事	岡本 康史 西山 博行
業務執行理事	村上 智英 森田 美紀 後藤 寛人 池上 慶行
理事	杉原 佑友太 木本 憲志
監事	坂ノ上 博史 中原 牧人

以上。